

# 診断調査によるAM手法を紹介

## 管診協 GM工業会と共催で講習会

管路診断コンサルタン  
ト協会(会長)山崎義広・  
三水コンサルタント社  
長)は5日、下水道展併  
催企画として日本クラ  
ンドマンホール工業会と  
の共催による講習会「下  
水道管路施設のアセット



山崎会長



森田教授

マネジメント」を開い  
た。冒頭、山崎会長は「当  
協会はアセット・マネジメ  
ントの最適化に向けた管  
路技術に関する調査研  
究・研鑽などに努め、技  
術発信を通じて公共下水  
道管路の維持管理に貢献  
していく」と同協会の方  
向性を紹介した。

基調講演は、森田弘  
昭・日本大学教授による  
「下水道管路探訪」。下水  
道事業の持続的な発展に  
は新たなサービスの開発  
と提供が不可欠だとし  
て、管きよ内への光ファ  
イバー布設、ディスプレイ  
ザーを活用した生ごみの  
下水道による処理、下水  
熱を利用した融雪等の熱  
資源の供給といった下水  
道管路の付加価値に関す  
る研究を紹介した。JIS  
規格取得などの標準化  
がもたらす国際展開上の

優位性、鉄蓋をはじめと  
した管路施設の観光資源  
化の取り組みについても  
解説。地下インフラにお  
いてどの建物にもネット  
ワークが繋がっており、  
エネルギーを使わず輸送  
が可能で、他の領域を受  
け入れる空間的余裕があ  
る下水道管路のアドバン  
テージを示し、「新しい  
価値を生み出すチャレン  
ジを」と訴えた。

技術委員の野村晋久氏  
は、同協会が開発・販売  
を手掛ける施設点検用の  
ポール付カメラ「管診  
鏡」の活用法について、  
マンホール用の「MC」、  
管口用の「PC」それぞ  
れの実際の運用事例から  
フィードバックした留意  
点や改善点を解説。技術  
マニユアル検討プロジェ  
クトチームは、調査・診  
断の観点から見たアセッ  
トマネジメント計画への  
アプローチをテーマに講  
演した。損傷の起こりや  
すい環境を抽出し、最適  
な点検調査サイクルを確  
立するとともに、耐久性

や機能性の視点で視覚・  
科学両面での調査を実施  
するといったサイクルに  
ついて解説。また、現在  
編集中の実務書の紹介も  
あった。

日本クラウンドマン  
ホール工業会の手嶋泰三  
氏は、マンホール蓋のア  
セットマネジメントにつ  
いて講演した。維持管理  
上の鉄蓋の特性として、  
▽下水道台帳に鉄蓋の施  
設情報がない▽道路とい  
う過酷な環境に設置▽材  
質や性能が短期間で進化  
し、古いタイプの鉄蓋は  
現在の環境や基準に適合  
していない▽標準耐用年  
数が短いことを挙げる  
とともに、現状の健全度  
を最低限維持するには、  
年間35万基もの改築が必  
要になると説明。維持管  
理情報のデータベース化  
とそれに基づくCAPD  
サイクル実践の必要性を  
強調し、鉄蓋の外観や推  
定設置年を記録する「マ  
ンホール蓋変遷表」など  
のデータ化の取り組みを  
紹介した。